

市役所女子職員の悲劇 ～ 羞恥の写真撮影編 ～

1 身分証明書と記名章

私は、あるマチの市役所で勤める女子職員です。
昨年就職して今年2年目になります。年齢は23歳で、未婚です。
名前は、川上紗良と申します。

今回は、私の勤める市役所で年1回必ず行われる「地獄の写真撮影」についてお話しします。

市役所に限らず、あらゆる団体・組織では、その構成員の身分を証明するための「身分証明書」や「記名章」を作成して、本人に携帯させていることが多いと思います。
私の勤める市役所もその例に漏れず、職員は常に「身分証明書」を携帯しています。
また、所属部署名、役職、氏名などが記載された「記名章」というものもあり、職員は、勤務中これを常に身に付け、お客様から見えるようにしておく必要があります。

これらの身分証明書と記名章には、職員本人の顔写真も入るのですが、月日の経過に伴う容姿の変化に対応するため、顔写真は定期的に撮影して差し替えることとなっています。

写真の差し替え頻度については、男性は2～3年ごととされていますが、女性は必ず年1回行うルールになっています。これは、髪型や化粧など、男性と比べて容姿の変化が多くなりがちだというのが理由とされています。

見方によっては男女差別と言われそうな話ですが、実際のところ、女性は数年間写真を差し替えないでいると、別人かと思うほど写真と実物が違うということもあります。
また過去には、それが原因で、「別人の記名章をつけて仕事をしている職員がいる」と誤解した市民との間でトラブルになったケースもあるそうです。

ということで、私自身は、年1回の写真撮影自体は必要なことだと思っています。

ただ、その内容があまりにも酷いのです。

それでは、具体的に説明していきたいと思います。

2 新規採用者説明会

私が初めてこの「地獄の写真撮影」を体験したのは、市役所への採用が決まり社会人デビューを間近に控えた3月中旬に行われた「新規採用者説明会」でのことです。

この説明会は、採用が決まった15名の新人（男子10名、女子5名）が市役所の会議室に集まり、採用日までの準備事項や採用初日の動きについての説明を受け、その後、各種書類の作成・提出などをして、最後に写真撮影が行われるというものでした。

事前の通知の中で少し不思議だったのは、「女子はパンツタイプのスーツを着用して来ること。また、それとは別に、スカートタイプのスーツも必ず持参すること。」という指示があったことでしたが、その意味は、写真撮影のときに思い知ることになるのでした。

説明会当日、諸々の説明や各種書類の手続などは淡々と進みました。そして終盤で、写真撮影を行うという段階になったとき、人事課長がこう切り出したのです。

「これから皆さんには一人ずつ写真撮影をしてもらいますが、その前に、改めて、**公務員という仕事の特殊性**についてお話しします。」

「公務員とは、『**社会全体の奉仕者**』と言われていています。これは、社会全体の利益のためには、自身のことを顧みず、身を呈して職務を全うするということを意味します。」

「これから皆さんも、公務員として働く中で、**嫌なことがたくさんある**と思います。でもそれは、**全て社会全体の利益のためになること**のはずですから、常にそれを意識して職務に当たるよう、心掛けていただかなければなりません。」

「これから行う写真撮影では、皆さんにその『**覚悟**』を示していただき、確認していきます。」

・・・ 一体どういう意味だろうと、私は戸惑いながら聞いていました。すると人事課長は続けて、衝撃的な言葉を発したのです。

「写真撮影は、この会議室の一角で行います。皆が見ている前で一人ずつ行うことになりませんが、**ただ顔写真を撮影するのではなく、裸になっていただいて、身体の隅々まで撮影します。**」

！！！！ もちろん会議室内は騒然としましたが、人事課長はさらに続けます。

「はいはい、落ち着いて聞いてください。私は先ほど、皆さんの覚悟を確認すると言いました。皆さんがこれから公務員として働いていく中では、理不尽なこともたくさんあるでしょう。その時に、**どれだけ理不尽なことでも社会のために遂行するんだという覚悟が必要になります。**」

「急に人前で裸になるように指示される。これも理不尽なことでしょう。しかしそれを社会全体の利益のためと割り切って遂行できるか。その覚悟があるかどうかを、これから確認します。」

「なお、この程度のことができないようではこの先もやっていけませんので、もしできない場合は、残念ながら正式採用は見送りとなります。**採用前の最終試験**と思って臨んでください。」

こうして、地獄の写真撮影への参加が言い渡されました。